

浜松地域の経済動向

2022年1月を中心に

オミクロン株感染拡大、景気は再び悪化傾向

自動車、二輪車生産台数は半導体不足の影響が大きく減産となった。

楽器は電子・電気ピアノの需要が高く堅調に推移した。遠州地方広幅織物生産高は下降に転じた。

市内ホテルの稼働率はオミクロン株感染拡大により、団体客のほとんどがキャンセルになるなど

低調に推移した。ガソリン価格は高止まりとなっている。

昨年10月以降順調に推移していた住宅着工件数もここにきて陰りが見え始めている。

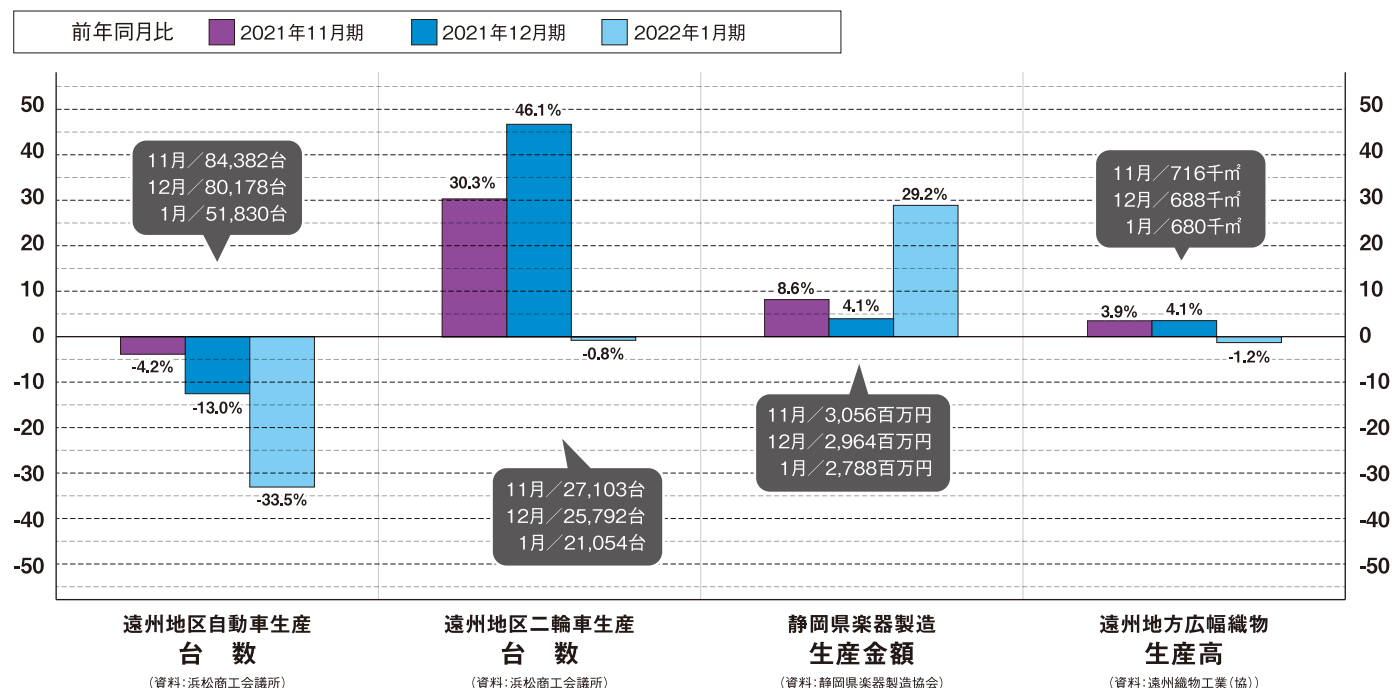
1月は西部地区での企業倒産はなかった。雇用情勢は回復傾向が続いている。

2022.

4月

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年1月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比33.5%減の5.1万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は32.5%減、小型四輪車は37.8%減、前月まで3カ月連続プラスと堅調に推移していた普通自動車も1月は7.8%減となった。国内向けは35.2%減、輸出は28.5%減であった。半導体不足の影響が長期化してきており生産台数が低迷する要因となっている。

二輪車



2022年1月における二輪車生産台数は前年同月比0.8%減の2.1万台となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。国内向けは135.3%増、輸出は6.5%の減であった。排気量別では、50cc以下154.3%増、51cc～125cc以下16.5%増、126cc～250cc以下17.4%減、251cc以上6.8%減であった。原動機付自転車(一種/二種)に区分される125cc以下は値段も手ごろで利便性が高く、使い勝手が良いと需要が高い。

楽器



2022年1月における生産金額は前年同月比29.2%増の27.8億円となった。分野別に1月の生産金額を見てみると、ピアノ0.1%増、電子・電気ピアノ60.9%増、電子オルガン16.1%減、管楽器4.5%増となった。電子オルガン以外は前年同月を上回った。需要は底堅く好調を維持している。

繊維



2022年1月の生産高は前年同月比1.2%減の680千㎡となった。前月まで6カ月連続で前年同月を上回っていたが、1月は再び下降に転じた。オミクロン株による感染拡大が続いており、生地需要低迷が続いている。綿糸等原材料価格は高止まりしており、染色加工の生産コストも上昇してきている。価格転嫁が必要な状況となっているが、春先以降は綿織物の需要減少が予想されるため対応に苦慮している。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年1月におけるタクシー乗車人員は前年同月比11.6%増の23.9万人となった。上旬は年末からの流れで比較的順調に推移したが、オミクロン株がまん延し始めた中旬以降は昼、夜とも利用者が減り始めた。まん延防止等重点措置が適用されてからは、繁華街での利用者は激減した。

観光

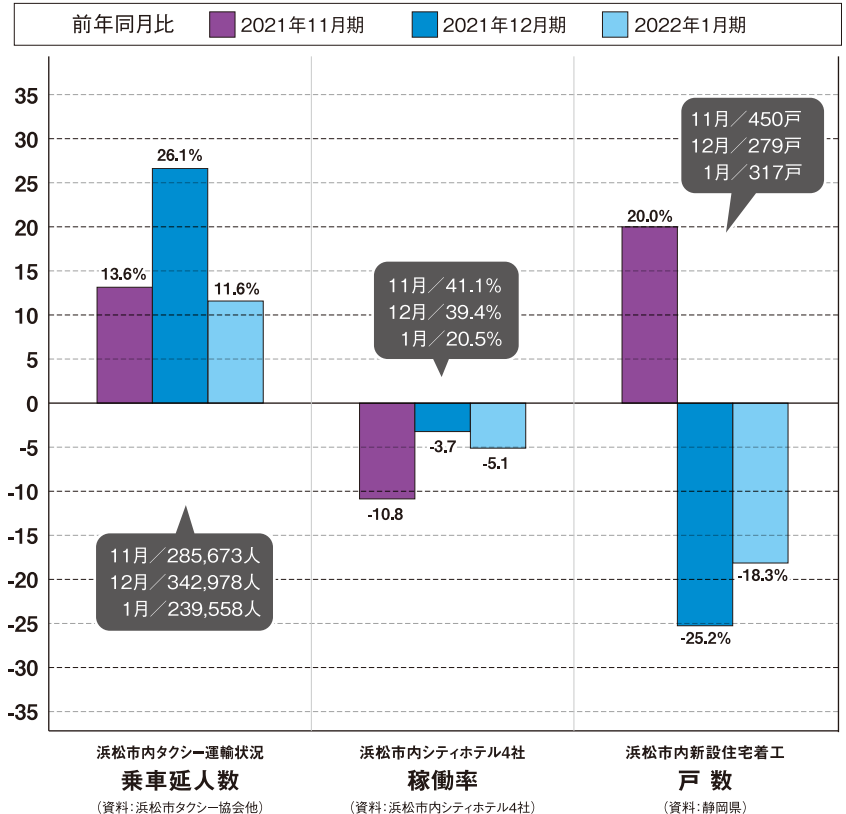


1月の浜松市内ホテルの稼働率は、前年同月より5.1ポイント低い20.5%であった。稼働率20.5%は自粛休業明けの2020年7月と同率。前月との比較でも18.9ポイント下回った。オミクロン株の感染拡大により、団体客のほとんどがキャンセルとなった。観光支援策「今こそしずおか元氣旅2」の停止も影響した。

住宅着工



2022年1月における浜松市の新設住宅着工戸数は、前年同月比18.3%減の317戸となった。前年同月より71戸下回った。持家は前年同月比41戸減、貸家は36戸減、分譲住宅は4戸減であった。静岡県全体の住宅着工戸数は前年同月を364戸下回る1,301戸であった。昨年10月以降、回復の兆しが見えた浜松市内住宅着工件数も、2カ月連続で前年同月を下回っており、陰りが見え始めてきた。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年1月の有効求人倍率は1.21倍と7カ月連続で1倍を上回った。前月との比較では0.02ポイント、前年同月との比較では0.18ポイント上回った。全国(1.20)との比較では0.01ポイント、静岡県(1.18)との比較では0.03ポイント上回った。浜松管内の有効求人倍率が1.20倍を超えたのは2020年3月以来であった。前月より有効求人数も増加しており、雇用情勢は回復傾向となっている。

倒産企業



2022年1月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は0件、負債総額は0億円となった。政府、地方自治体、金融機関等の各種中小企業向け資金繰り支援策の効果もあり、1月は2007年1月ぶりの倒産企業数0件であった。静岡県全体の倒産件数は10件で前年同月より11件減少した。

ガソリン価格



2022年1月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり163.6円となった。前年同月と比較すると27.7円上昇した。前月との比較では4.3円低下したが、4カ月連続で160円台となっており、ガソリン価格は高値が続いている。経済活動が再開されつつあるなか、産油国であるロシアとウクライナの情勢が緊迫化しており、更なる値上げによる企業活動や家庭生活への影響が懸念される。

外国為替



2022年1月の外国為替は1ドル114.83円、前年同月と比較すると11.13円の円安となった。前月との比較でも0.96円の円安となっている。為替に影響があるとされる日本の物価上昇率が米国より低い状態となっており、米国の金利上昇も続いていることから円安長期化が予想される。

